

第9回「明日の西湘海岸を考える懇談会」議事要旨

- 開催日時：令和7年3月14日（金） 13：30～15：00
- 開催場所：小田原市生涯学習センター国府津学習館
- 出席委員（敬称略） （代理出席を含む）

【座長】宇多 高明	日本大学 客員教授	有識者
川辺 みどり	東京海洋大学 教授	
柴山 知也	中央大学研究開発機構 機構教授	
関根 正人	早稲田大学 理工学術院 教授	
上田 雅一	大磯二宮漁業協同組合副組合長	漁業関係
原 享	二宮町地区長連絡協議会代表	住民利用者
田邊 邦良	二宮町観光協会会長	
柴田 亮	国土交通省国土技術政策総合研究所海岸研究室長 (代理出席：主任研究官 野口 賢二)	行政
武井 好博	小田原市副市長 (代理出席：経済部長 遠藤 孝枝)	
鈴木 一男	大磯町副町長 (代理出席：建設課長 露木 進)	
荒井 千里	神奈川県県土整備局河川下水道部防災なぎさ担当課長	
五十嵐 敬	神奈川県県西土木事務所 小田原土木センター所長	
近藤 充志	神奈川県平塚土木事務所長	
金森 正博	国土交通省関東地方整備局河川部低潮線保全官	
佐々木 昇平	国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所長	

○次第

1. 開会挨拶（京浜河川事務所）
2. 議 題
 - （1）国土交通省による西湘海岸保全施設整備事業の概要について
 - （2）神奈川県による海岸保全対策事業の概要について
 - （3）意見交換
3. 閉会挨拶

○配布資料

- ・ 第9回「明日の西湘海岸を考える懇談会」次第
- ・ 第9回「明日の西湘海岸を考える懇談会」委員出席者名簿
- ・ 第9回「明日の西湘海岸を考える懇談会」配席図
- ・ 「明日の西湘海岸を考える懇談会」規約
- ・ 「明日の西湘海岸を考える懇談会」傍聴規定
- ・ 国土交通省による西湘海岸保全施設整備事業の概要 京浜河川事務所資料
- ・ 神奈川県による海岸保全対策事業の概要 神奈川県資料

○議事要旨

【国土交通省による西湘海岸保全施設整備事業の概要について】

【神奈川県による海岸保全対策事業の概要について】

【意見交換】 ■：委員による意見、質問等 ○：神奈川県 □：京浜河川事務所

■今後の計測は、仮説検証型の計測を計画したほうが、この岩盤型潜水突堤がどんなに有効なものであるかを示していくのに有効であると思う。

■砂礫の養浜で、汀線を守るという意味から言うと大きな礫がたくさんあったほうが有利である。

○養浜で砂浜を回復させるためには、養浜材の粒径はある程度大きいほうが良いが、漁業関係者との調整し、操業に影響の出ない範囲で大きな粒径のものを入れている。

■要望として、地元の現場をぜひ見たい。

□安全面を考えて様子を見てからと考えていたが、関係機関と相談する。

■高波浪前後の地形変化図について、岸側に砂が運ばれてくるときには堆積、沖側に運ばれていくときには侵食という表現をしてほしい。

■地形変化図で、2016年～2018年の2年間で酒匂川河口部のテラス部分が東側の大磯側が青色系になって、西側の真鶴側が赤色系になっており、河口の堆積物が移動して侵食と堆積が起こっているように見てとれる。一方、その後の4年間を見ると全体が赤くなっているの、前の2年間で青くなってしまったところも赤くなっているの、6年間では全体的に多く出ていると見えるが、酒匂川の洪水で毎年こんなに出てくるものなのか。

■酒匂川の洪水の影響でやや西側にたまった。

■飯泉取水堰で結構たまっているようだが、そこも超えてくるということでよいか。

■飯泉取水堰に砂州があるがオーバーフローすれば流れる構造になっており全部止めているわけではないことでよいか。

○飯泉取水堰にたまっている砂礫は、出水時に堰を超えて下流に流れている。県は取水堰の下流にたまった砂礫も養浜材に活用している。

■酒匂川のも材料も粒径はいろいろであり、その材料を使ったほうが流域全体から考えると合理的である。県と国でよく相談し掘削箇所の粒度の特性をお互い知っておく必要もある。

将来の養浜のことを考えたら連携が大事と思う。

□今回、三保ダムと飯泉取水堰から提供いただいた土砂を用意した。基材なので選別はしていない。試験結果もある。

□課題は運搬費と材料選別する作業費だが、今後調整が必要と考えている。

■概算として1 m³あたり1万円位かかる。

■お互いの事業費のアロケーションをおこなっているのか。

□アロケーションではない。ダムで掘削し海岸までの運搬費として1万円/m³は超えるだろうとみている。

■富士海岸では砂防と連携している。両方の事業のアロケーションで、購入材と同じぐらいになるようなやり方をしている。

□担当者レベルで調整を進めており、ダム側が海岸近くまでの運搬を行ってもらえるよう調整しているところである。

■それはありがたい。

■飯泉取水堰に近いところの河床材を使ったり、上流の三保ダムでの置き砂など、できる限りコストダウンを図っていただきたい。

■三保ダムの砂、礫の置き場というのを県に案内していただいたが、海岸にとって有利な場所、簡単に言えばシルトが絶対ない、それで粒径がちょうど3cmより小さい、5cmより小さい、ちょっと小さめの礫が含まれているという場所があると思いますので、一番いいところだけもらってくれば良いと思う。

■一時的に養浜すればいいというわけではなく、継続的にやらなければならない。よく相談をしていただきたい。

■三保ダム下流に合流する支川の上流にはダムがあるのか。

○三保ダムから下流にダムはない。

三保ダムでは、令和2年から年間3,000 m³~5,000m³の置き砂を実施している。

■洪水等でフラッシュされたときに大きい粒径が流れて、理想の海岸に近づくのではないか。

■なかなかそううまくいかない。海岸で欲しいものはなかなか来ない。

■来年は第10回ということで、まとめというようなプロジェクトサイクルを考えるとよい。工程表だと、まだ道半ばにも到達していないというのがよく分かったが、目標を立てたらよい。

この懇談会での情報共有により意見は出るが、その意見の反映がわからない。

□突堤も第1基が完成し、漂砂メカニズムも少しずつ分かってきたと感じており、これからは仮説検証型に切り替えていくという意見もあるため、今回はまとめとして第9回までを総括的にやっていきたいと考えている。

■全部分かってしまったということはありません。ただ、私たちは探りをしながら前へ考えていかなければならない。仮に少し判断がおかしかったとしても、10年間でここまでできた、あと5年ぐらいすると大体この辺までやれるのではないかということ公表できるくらいブラッシュアップし、地元の皆さまにも今後の段取りを示して、もう少し事業をアピールしたほうが良い。

本来、地元は、侵食した砂浜を早く戻してほしいというのが最初だった。

それに合わせて一体どういうふうにして、けどどういう苦労があつてなかなか思うようにいかないか、それも含めたアピールが良い。

すごい波が来るとか、とんでもない方向から波が来るとするのは自然現象であり、今は地球規模の温暖化などの心配もあり、今までの流れでそのまま10年20年やっていけばいいのか、あるいはもうちょっと違う面も考えなければいけないのかというちょうど瀬戸際に来ているのかなと直感的には思う。

■懇談会開催は、年度末ぎりぎりではなくて、もう少し早い時期が良い。

■秋ぐらいに開催かと思う。

■海岸保全は、防災とまちづくり、都市計画に関わりが深いことでもあるため、参加者として市町のまちづくりや防災に関わる御担当にお願いしたいわけではないか。

■すぐに答えは出ないかもしれないけれども、人数が限られているということもあり、地元とのリンクが取れない、少し不足しているという意見もある。

そういう中で、この場を広げるか、あるいは、この場はこのままにして置いて、検討会ではなく、もう少し広げた形で秋にでも、展望があるような話ができるような場をもうひとつ別につくるか、それは事務局にお任せする。

■台風のときに濁度フラックス、流況を測るとするのは結構重要。まさにそのときに突堤が一番危機的な状況になるわけですから、これはぜひ続けてほしい。

■濁度で2つ砂が舞い上がる理由がある。1つは砕波による渦。1つは底面付近の渦。

□現在、流向・流速計は底から50cm上に設置しているが1点だけであり、水深方向にどのぐらい取るかといったことも考えてみたい。

■典型的に底面付近を取っているので、底面のシアによるまき上げだということですね。

■大事なことは、何のためにこの計測器をセットするのかというのを絶えず疑問に思っていて、
いただいて調査を行ってほしい。

○西湘海岸の保全対策として、国による突堤整備や県による養浜など、様々な取組を行っている。本日いただいた御意見を踏まえ、環境にも配慮しながら、より安全に、効率的・効果的に、引き続き国・県で連携しながら進めていく。また、10回目の懇談会開催に向けて工夫しながら考えていきたい。